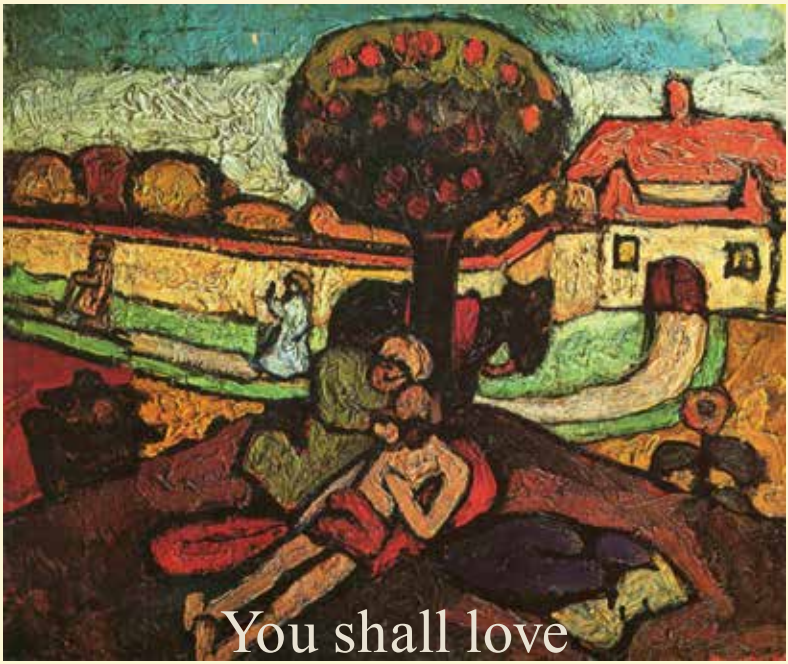
2024 年キリスト教一致祈祷週間

1 月 18 日－25 日



the Lord your God ...
and your neighbour as yourself
（**Luke 10:27**）

あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい
（ルカ 10･27 参照）

日本キリスト教協議会
カトリック中央協議会

この小冊子は、世界教会協議会（WCC）と、教皇庁キリスト教一致推進省が共同発行した資料をもとに作られました。年間を通じて、合同の集会などでご利用ください。

聖書本文の引用は、『聖書　新共同訳』（日本聖書協会、2000 年）を使用しています。

目　　次

キリスト教一致祈祷週間を準備する皆さんへ…… 2

2024 年の聖書テキスト …… 4

2024 年のテーマの解説 …… 5

2024 年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備 …… 11

エキュメニカル礼拝…… 13
　はじめに…… 13
　礼拝式文…… 14

付録…… 26

八日間の聖書の黙想と祈り…… 28

ブルキナファソのエキュメニズム状況…… 44

「シュマン・ヌフ（新しい道）共同体」の紹介 …… 46

キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968 – 2024 年） …… 51

キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年…… 54

キリスト教一致祈祷週間を準備する皆さんへ

一致を求めて――年間を通じて

キリスト教一致祈祷週間は、北半球では、伝統的に1月18日から25日に行われます。この日程は、1908年にポール・ワトソンによって提案されたもので、当時祝われていた聖ペトロの祝日と聖パウロの祝日の間の期間であり、日付そのものに象徴的な意味があります。しかし、南半球では、1月は休暇の季節なので、他の日程、たとえばペンテコステ（聖霊降臨の主日）前後に変更する地方もあります（1926年に信仰職制運動により提案された日程）。この日付も、教会の一致のために象徴的で意義深いものです。

日程については柔軟に対応できることにご留意ください。諸教派間ですでに実現している交わりの状況を伝え、キリストのみ心である完全な一致を求めてともに祈るために、この資料が年間を通じて用いられるよう願っています。

各地の状況に合わせてテキストを用いる

この資料は、可能な場合はいつでも、各地域の状況に合わせて適用できるように作成されています。その場合、各地の典礼や礼拝の様式、社会的・文化的背景全体が考慮されなければなりません。そのような適用は、理想としては、エキュメニカルなかたちで行われるべきです。いくつかの地域ではすでに、この資料を適用するためのエキュメニカルな体制が整っていますが、そうでない地域では、適用の必要性がきっかけとなって、そうした体制が築かれるよう願っています。

キリスト教一致祈祷週間資料の用い方

＊　教会やキリスト教共同体の団体が、協力して一回の合同礼拝を行う場合には、「エキュメニカル礼拝式文」をそのまま使うことができます。

＊　教会やキリスト教共同体の団体は、固有の礼拝にこの資料を組み入れて用いることができます。たとえば、「エキュメニカル礼拝式文」や「八日間

の聖書の黙想と祈り」、その他の祈りを、それぞれの状況に応じて用いることができます。

＊　一週間を通して一致祈祷週間の礼拝を毎日ささげる共同体は、その礼拝の資料として「八日間の聖書の黙想と祈り」を使うことができます。

＊　キリスト教一致祈祷週間のテーマに関する聖書研究を行いたい場合には、「八日間の聖書の黙想と祈り」に提示されている聖句や説明を基礎資料として使うことができます。また、日々のディスカッションは、共同祈願で締めくくることができます。

＊　一人で祈りたい人も、自分の祈りの意向に集中するためにこの資料を役立てることができます。そうすれば、自分たちが、キリストの教会を目に見えるかたちでさらに一致させるために祈っている世界中の人々との交わりの内にあることを、忘れずにいられるでしょう。

2024 年の聖書テキスト

ルカ 10・25－37

　すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか」。イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります」。イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすればいのちが得られる」。しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見てあわれに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨 2 枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います』。さて、あなたはこの 3 人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」。律法の専門家は言った。「その人を助けた人です」。そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい」。

2024 年のテーマの解説

「あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」
（ルカ 10・27）

2024 年のキリスト教一致祈祷週間のための資料は、ブルキナファソのシュマン･ヌフ共同体[1] に率いられたエキュメニカル･チームによって準備されました。選ばれたテーマは、「あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい」(ルカ 10･27)です。ブルキナファソのカトリックのワガドゥグー大司教区、プロテスタント諸教会、エキュメニカル団体、シュマン・ヌフ共同体の兄弟姉妹たちは、祈りと黙想のためのテキスト起草に惜しみなく協力し、エキュメニカルな回心への真の道として、その共同作業を体験しました。

安全保障上の危機のただ中にあって、神と隣人を愛すること

ブルキナファソは西アフリカのサヘル地域に位置し、マリ、ニジェールと隣接しています。面積は 17 万 4000 平方キロメートル、人口は 2100 万人で、約 60 の民族が暮らしています。宗教的には、人口の約 64％がムスリム、9％がアフリカの伝統宗教､26％がキリスト教徒（カトリック 20％､プロテスタント 6％）です。これら三つの宗教集団は、国内のあらゆる地域に存在しますし、実際、各家庭にも存在します。

ブルキナファソは現在、すべての信仰共同体に影響を及ぼす、深刻な安全保障上の危機に見舞われています。2016 年に国外のジハード主義者による大規模な攻撃が行われた後、ブルキナファソの治安状況は劇的に悪化し、その結果、社会的結束が著しく弱まりました。同国はテロ攻撃、無法状態、人身取引の横行に耐えてきました。その結果、3000 人以上の死者と 200 万人近い国内避難民が発生しました。数千の学校、医療センター、役場が閉鎖され、社会経済・交通インフラの多くが破壊されています。特定の民族グループを標的にした攻撃が、地域間紛争の危険を悪化させています。この悲惨な治安状況の中で、社会

[1] シュマン・ヌフ共同体の詳細については 46 ページを参照。

的結束、平和、国民の一致がむしばまれているのです。

キリスト教会は武力攻撃の標的になっています。司祭、牧師、カテキスタが礼拝中に殺害され、誘拐された人々の行方はいまだに不明です。本稿執筆時点では、国土の22%以上が政府の支配下にありません。これらの地域ではキリスト者はもはや公然と信仰を実践することはできない状態に置かれています。テロのため、同国の北部、東部、北西部にあるキリスト教諸教会の大半は閉鎖されています。これらの地域の多半では、もはやキリスト教の公開の礼拝は行われていません。警察の保護を受けて礼拝が可能な場合、それは大抵大都市ですが、警備上の懸念から礼拝時間を短縮しなければなりません。

政府と宗教界双方の努力にもかかわらず、過激派グループがはびこるにつれ、この国はますます不安定になっていることを認識しなければなりません。とはいえ、キリスト者、ムスリム、伝統宗教の間にはある程度の連帯が生まれつつあります。それぞれの指導者たちは、平和、社会の結束、和解のための永続的な解決策を見いだそうと努力しています。そのために、たとえばブルキナ・ニジェール・カトリック司教協議会のキリスト者・ムスリム対話委員会は、諸宗教・民族間の対話と協力を支援するために尽力しています。

平和、社会の結束、和解のための祈りを求める政府の呼びかけを受け、各教会は毎日の祈りと断食を続けています。カトリック教会やプロテスタント教会は、避難民支援のためのさまざまな活動を活発化させています。現状をよりよく理解し、かつ友愛の価値についての理解を深め、持続的な平和への回帰に向けた戦略を練るために、検討を重ね意識を向上させる集会が開催されています。この希望は、モシ族[2]の伝統的なことわざにも反映されています。「戦いの性質や期間がどうであれ、和解の瞬間は訪れる」。

自国がこうした困難な状況にある中で、相互の愛のうちにともに歩み、祈り、働くことによって、「2024年キリスト教一致祈祷週間」のテキストをともに作成するという招きは、ブルキナファソの諸教会にとって大きな挑戦でした。すべてのキリスト者を結びつけるキリストの愛は、その分裂よりも強く、ブルキナファソのキリスト者は、神を愛し、隣人を愛する道を歩むことで結束してい

[2] モシ族は、ブルキナファソでもっと最大の民族グループ。

ます。彼らは、神の愛が現在、自分たちの国を苦しめている暴力に打ち勝つと確信しています。

聖書箇所

キリスト者の生活における愛の中心性

愛はキリスト教信仰の「DNA」です。神は愛であり、「キリストの愛がわたしたちを一つに集めてくださったのです」[3]。わたしたちは、神の愛の体験の中に共通のアイデンティティを見いだし（ヨハネ 3・16 参照）、どのように互いに愛し合うかによって、そのアイデンティティを世に示していきます（ヨハネ 13・35）。2024 年キリスト教一致祈祷週間のテーマに選ばれた聖書箇所（ルカ 10・25 － 37）でイエスは、申命記 6・5 の「心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛しなさい」、レビ記 19・18b の「自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」という、ユダヤ教の伝統的な教えを再確認しているのです。

福音書の一節に登場する律法の専門家は、さっそくイエスに尋ねます。聖書の愛の義務はどこまで及ぶべきかという問題では、「わたしの隣人とはだれですか」は、律法の専門家の間で論争になっていました。伝統的には、この義務は同胞であるイスラエル人と、居住する異邦人にまで及ぶと考えられていました。その後、外国勢力による侵略の影響を受けて、律法は占領軍の異邦人には適用されないと理解されるようになりました。やがてユダヤ教自体が分裂し、時に律法は自分の特定の派閥にのみ適用されると理解されることもありました。それゆえ、律法の専門家がイエスに投げかけた問いは挑発的なものでした。イエスはこの問いに対し、律法の専門家が期待する範囲をはるかに超えた愛をたとえ話で説明しています。

オリゲネス、アレキサンドリアのクレメンス、ヨハネ・クリゾストモ、アウグスティヌスといった、多くの初期キリスト教の教父たちは、このたとえ話の中に、世を救うための神の計画の軌跡を見ました。彼らは、エルサレムから下っ

[3] アクイレイアのパウロ『ウビ・カリタス』

ていく人を、楽園から、すべての危険と挫折を抱えたこの世に下ってくるアダム、すなわち全人類のイメージとして見、追いはぎを、わたしたちを襲う敵対的な地上の権力のイメージとして見たのです。彼らはキリストご自身を、あわれみで心動かされ、半死半生の人を助けに来て、その傷の手当てをし、安全な宿屋に連れて来た人として見、それは教会のイメージであると考えました。帰りがけにというサマリア人の約束は、主の再臨の約束を予表するものだと理解されたのです。

キリスト者は、キリストのように、宗教的、民族的、社会的アイデンティティに関係なく、困っている人にあわれみと思いやりを示し、よいサマリア人のように愛の行動をとるよう求められています。わたしたちが他者を助けるよう促されるのは、アイデンティティの共有ゆえではなく、「隣人」愛からです。しかし、イエスが示した隣人愛のビジョンは、現代世界の中で緊張にさらされています。多くの地域での戦争、国際関係の不均衡、西洋列強やその他の外部機関によって押しつけられた構造調整によって生じた不平等などすべてが、キリストのように愛するわたしたちの力を阻害しています。キリスト者が福音書に登場するサマリア人のような隣人となれるのは、違いを乗り越えた相互の愛を学ぶことによってのみなのです。

エキュメニズムの道

イエスは弟子たちが皆一つになるようにと祈られました（ヨハネ17･21参照）。ですからキリスト者は希望を失うことも、一致のために祈り働くのをやめることもできないのです。彼らは、キリストにおける神への愛と、自らに対する神の愛を知る経験によって結ばれています。ともに祈り、礼拝し、神に仕えるとき、キリスト者は、互いの中のこの信仰体験に気づくのです。しかし、ブルキナファソでもそうです。教会間の関係においては、このことが依然として課題で、教会間の相互理解の欠如や、互いへの猜疑心は、エキュメニズムの道への専心を弱めています。エキュメニズムが教派のアイデンティティの喪失につながり、教会の「成長」を妨げるのではないかと不安に思う人たちも存在します。このような教会間の競争意識は、イエスの祈りに反しています。福音書箇所に

登場する祭司とレビ人のように、キリスト者はしばしば恐れのために兄弟姉妹と接する機会を逃してしまいます。キリスト教一致祈祷週間の間、主がわたしたちを助け、わたしたちの傷をいやし、そうして自信と希望をもってエキュメニズムの道を歩むことができるようにしてくださることを、主に願い求めます。[4]

より広い平和と和解に奉仕するキリスト者の一致

ブルキナファソ特有の状況を考えれば、平和と和解を模索する中心に、愛を据えなければなりません。こうした模索はしばしば、価値観の喪失や人間性に対する共通意識の喪失によって、また共通善、高潔さ、誠実さ、愛国心への関心が低下することによって、台なしにされてきました。和解への模索もまた、霊的貧困や安易な利益追求によって弱体化しているのです。このような現実を前にして、神の愛をあかしする必要性はよりいっそう高まっています。

ブルキナファソにおいて分裂から一致へ移行すること

ブルキナファソのキリスト教共同体は、互いを受け入れ合うことを通して、愛の呼びかけを実践しようとしています。このことは、キリスト教一致祈祷週間においてとくに顕著に見られます。彼らは、フランス語のエキュメニカル訳聖書（Traduction Œcuménique de la Bible）を現地語に翻訳するために人的、財政的資源の両方を提供しており、こうして、キリスト者を神のことばの「宿屋」（ルカ 10・34 参照）に導くのに役立っています。さらに、互いの教会を訪問し、礼拝をともにしています。また、ブルキナファソにおける人々の友愛、平和と安全の促進に協力しています。貧困と苦難に陥った人々の傷をいやすことで、兄弟姉妹にキリストをもたらすのです。

しかし、アフリカのことわざにあるように、「木は森を隠してはなりません」。このような好ましいエキュメニズムの実例があるからといって、一致に対する多くの課題が残っているという事実を覆い隠すことはできません。三位一体の神を告白するすべての人の隣人となろうとする努力にもかかわらず、ブルキナファソの諸教会は、キリストが命じた、真に愛し合うことに苦闘しています。

[4] ブルキナファソの諸教会がどのように協力しているかについての情報は、44 ページを参照。

時に人々は、サマリア人とユダヤ人のように、文化的にも神学的にも分断され、非友好的あるいは敵対的な関係となっています。不和が続くことで醜態をさらし、互いの傷にいやしの油とぶどう酒を注ぐには、エキュメニカルな回心が必要だと彼らは認めています。

教父たちは、よいサマリア人のたとえ話に出てくる宿屋を教会のイメージとしてしばしば解釈してきました。サマリア人が傷ついた人を宿屋に連れてきたように、キリストは世界の傷ついた人、困窮している人をわたしたちの教会にゆだね、わたしたちは、傷の手当てをし、健康な状態に回復するよう助けるのです。世界に奉仕するこの使命は、神の民への神のたまものである、一致への道でもあるのです。

2024年キリスト教一致祈祷週間の資料の準備

教皇庁キリスト教一致推進省と世界教会協議会信仰と職制委員会が共同で任命した国際チームが、2024年キリスト教一致祈祷週間のための資料を検討し、最終決定する会合を、2022年9月25日から29日までローマで開きました。会議は、2016年以来、キリスト教一致に特別に専心しているシュマン・ヌフ共同体が運営しているカーサ・サン・ジュゼッペ・ディ・クリュニーで行われました。

この資料の起草は、教皇庁キリスト教一致推進省から、ブルキナファソのエキュメニカル・チームに委託され、同国のシュマン・ヌフ共同体がまとめました。ブルキナファソでは、エキュメニズム運動に対する理解と協力は必ずしも強くはなかったものの、カトリックのワガドゥグー大司教区、プロテスタント諸教会、エキュメニカルな各団体の代表者たちは、この招待を快く受け入れ、祈りと黙想の草稿作成に惜しみなく協力しました。ブルキナファソの政治的・社会的状況は不安定であり、平和と社会的結束を脅かす多くの脅威が存在します。このような不安定な時期にキリスト教一致祈祷週間の小冊子を準備することは、キリストの愛がすべてのキリスト者を結びつけ、その分裂よりも強いものであることを、エキュメニカルな起草グループが認識する助けとなりました。作業が完了したとき、このようなかたちでともに作業することが、彼らにとって真にエキュメニカルな回心の経験であったことを認識したのです。

残念ながら、ローマでの会議に参加予定だった現地グループのうちの4人は、航空管制官の直前のストライキにより、対面での出席はかないませんでしたが、リモートで参加しました。会議の共同議長は、ジュネーブの世界教会協議会のミキー・ロバーツ牧師と、ローマ教皇庁キリスト教一致推進省のアンソニー・カラー神父が務めました。

国際チームからの参加者

Revd Fr Martin Browne OSB	Dicastery for Promoting Christian Unity（Rome）
Revd Peter Colwell	Churches Together in Britain & Ireland（London）
Revd Anthony Currer	Dicastery for Promoting Christian Unity（Rome）
Revd Fr Miguel Desjardins CCN	Bishops' Conference of France（Paris）
Dr Ani Ghazaryan Drissi	World Council of Churches（Geneva）
Sr Leticia Candelario Lopez FMVD	Verbum Dei Missionary Fraternity（Singapore）
Revd Dr Odair Pedroso Mateus	World Council of Churches（Geneva）
Revd Fr James Puglisi SA	Centro pro Unione（Rome）
Revd Dr Mikie Roberts	World Council of Churches（Geneva）
Pastor Dr Jochen Wagner	Association of Christian Churches of Germany（Frankfurt）
Dr Clare Watkins	University of Roehampton（London）

ブルキナファソの草稿グループ

Revd Ousman Justin Bande	St John the Baptist Seminary, Ouagadougou
Ezechiel Amadou Hebie	*Chemin Neuf* Community
Revd David Ilboudo	Archdiocese of Ouagadougou
Pastor Tegwende Léonard Kinda	Association of Reformed Evangelical Churches
Pastor Patrice Kobamba	Bible Society of Burkina Faso
Yvonne Nikiema	Archdiocese of Ouagadougou
Henri Rouamba	*Chemin Neuf* Community
Sr Yolande Tapsoba CCN	*Chemin Neuf* Community
Florence Zaongo	*Chemin Neuf* Community
Alix Zongo	*Chemin Neuf* Community

エキュメニカル礼拝

はじめに

今年のエキュメニカルな儀式は、ブルキナファソのさまざまなキリスト教の伝統を代表するチームによって準備されました。

聖書と典礼のテキストの選択は、イエスが旧約聖書のおきてについての質問に答えて、隣人を愛するとはどういうことかを示したたとえ話（ルカ 10・25 － 37）に出てくるよいサマリア人の姿からヒントを得ています。「あなたの神、主を愛しなさい、……また、自分自身を愛するように隣人を愛しなさい」（申命記 6・5、レビ記 19・18b）。

礼拝の準備には、いくつかのものが必要です。神の愛を分かち合うという集合のアクションには、水を満たしたカラバッシュ[5]または容器が必要です。礼拝は、朗読者が共同体に集まるように呼びかけると、典礼奉仕者がカラバッシュまたは他の適当な容器をもって入堂します。礼拝を主催している共同体のメンバーが、出席している他の共同体の代表者に、カラバッシュから水を差し出して飲ませます。この所作は、教会の入り口で行うこともできます。この歓迎の式が終わると、賛歌が歌われたり音楽が演奏されたりする間、司式者たちと礼拝に出席している共同体の代表者らが行列に加わります。

西アフリカのキリスト者が礼拝に参加している場合は、礼拝中に彼らの母国語で賛歌を歌うよう呼びかけるとよいでしょう。さらに、神の愛の豊かさと神の民の多様性を示すために、出席している諸教会の代表者が色とりどりの花束をもち寄ることも可能です。

司式者に割り当てられたテキストは、異なる伝統から参列しているさまざまな聖職者や代表者で分担することができます。同様に、朗読者に割り当てられたテキストは、複数の人で分担することができます。

礼拝の終わり、司式者が閉祭を宣言するとき、水の入ったカラバッシュまたは容器が前に運ばれ、会衆の前で高く掲げられます。派遣と祝福は、出席しているさまざまな共同体の奉仕者／代表者が共同で行ってもよいでしょう。

---

[5] 食べ物や飲み物の入れ物として使われる、カラバッシュ（ ひょうたん）の実を乾燥させてくりぬいたもの。

礼　拝　式　文

神の愛を分かち合うために集う

朗　読　者　ブルキナファソでは、旅で疲れて到着した客に水を分け与えるためにカラバッシュを用います。これは歓迎、歓待、友情のしるしです。訪問者が疲れをいやしたあと、会話が始まり、訪問の目的を伝えることができるのです。
わたしたちが集まり、祈りに入るとき、アブラハムが３人の訪問者を歓迎し、彼らが疲れをいやすために水を提供したのと同様に、わたしたちも皆さんを歓迎します。皆さんのいやしのために、この容器の水を提供します。

（カラバッシュからの水は、礼拝を主催している共同体のメンバーが、その場にいる他の教会の代表者と分かち合う。カラバッシュが聖堂の前に戻されると、賛歌が歌われるか、音楽が演奏され、礼拝の司式者たちが行列に加わる。）

礼拝への招き

司　式　者　父と子と聖霊のみ名によって。

会　　衆　**アーメン。**

司　式　者　わたしたちは、目に見えるキリスト者の一致のために祈る兄弟姉妹として集っています。この礼拝の中心は、神を愛し、隣人を自分のように愛しなさいという神の呼びかけを聞く「よいサマリア人」の物語です。
感謝と喜びのうちに、愛である神に出会うよう心を整え、「愛しなさい」という神のおきてを思い起こしましょう。

会　　衆　**御父に、栄光がありますように。御父は被造物のうちに自らを**

現し、その現存のうちに生きるようすべての人を招いてくださいます。
イエス・キリストに栄光がありますように。キリストはわたしたち一人ひとりにご自分のすべてをお与えになり、わたしたちにも同じようにするよう招いておられます。
聖霊に、栄光がありますように。聖霊はわたしたちを愛と一致のうちに集めてくださいます。
愛である神に栄光がありますように。神のうちにわたしたちは造られ、あがなわれ、一つとされたのです。
アーメン。

賛歌

賛美と感謝の連祷

朗　読　者　賛美のうちに神に心を向けましょう。
主よ、あなたを賛美します。主はわたしたちが決して希望を失わないように、わたしたちの心に愛を注いでくださいました。主の愛によって、わたしたちのいのちを恐れから解放し、傷ついた心にいやしを与えてくださいます。世界中の隣人のために、愛と希望の種を蒔くすべての人のゆえに、あなたを賛美します。

会　　衆　**主よ、あなたを賛美します。**

朗　読　者　永遠の神よ、すべての人のあがない主である御子イエスのたまものに感謝します。回心の恵み、あなたの民の間に、そしてあらゆる場所、あなたが蒔いてくださった信仰と希望と愛の種すべてに感謝します。使徒たちから受けた信仰、一致するようにとのイエスの祈り、そして救いの福音というたまものを感謝します。

会　　衆　**主よ、あなたに感謝します。**

朗　読　者　愛である神よ、わたしたちは、すべての人に対するあなたの愛の寛大さをあがめます。それは、わたしたちの理解を超えた完全な愛であり、人種、性別、社会的地位によって分け隔てしない愛です。愛のゆえに御子イエス・キリストをこの世に遣わし、聖霊によってわたしたちのいのちを愛で満たし続けてくださるあなたを、わたしたちは慕い求めます。

会　　衆　**主よ、あなたをあがめます。**

罪の告白の祈り

司　式　者　神よ、わたしたちは今、あなたのみ前でわたしたちの罪を告白します。

朗　読　者　神不在の幸福を求め、愛のおきてを無視することで、わたしたちは神からも隣人からも遠ざかっています。利己主義と所有欲、支配欲は、わたしたちを神から引き離します。

沈黙

朗　読　者　いつくしみ深い神よ。

会　　衆　**わたしたちをゆるし、いやしてください。**

朗　読　者　わたしたちが他者の人間性をおとしめるイデオロギーを受け入れるなら、分断の壁を築き、憎しみと暴力の種を蒔き、互いに愛し合いなさいという主のおきてを放棄してしまうことになります。

沈黙

朗　読　者　いつくしみ深い神よ。

会　　衆　**わたしたちをゆるし、いやしてください。**

朗　読　者　わたしたちは心をかたくなにし、自分自身を欺いてきました。思いやりに欠け、もはや、自分とは異質の人々の中にイエスを見ることができません。

沈黙

朗　読　者　いつくしみ深い神よ。
会　　衆　**わたしたちをゆるし、いやしてください。**

朗　読　者　わたしたちは、すべての人に対する、神の限りない、無条件の愛に心を開くことができません。この愛に心を閉ざすことで、世界は利己主義、暴力、無関心、意味の欠如の暗闇に引き込まれてしまいます。

朗　読　者　いつくしみ深い神よ。
会　　衆　**わたしたちをゆるし、いやしてください。**

朗　読　者　主イエス・キリストの父である神よ。時が満ちてあなたはすべての被造物をあがなうために御子を遣わしてくださいました。どうかわたしたちをあわれみ、罪をゆるし、聖霊によってわたしたちを変えてくださいますように。
会　　衆　**わたしたちは声を合わせて、あなたを称えます。栄光は神に。**

三聖唱（トリスギアオン）[6]
会　　衆　**聖なる神。**
聖なる強きかた。
聖なる不死のかた。わたしたちにいつくしみを。

[6]「三聖唱」はもっとも古いキリスト教の祈りの一つ。東方、西方両方の教会の礼拝でよく歌われる。十字架からイエスのご遺体を取りおろす際にニコデモが最初に唱えたのが始まりとする伝承もある。

旧約聖書の朗読　創世記（18・1－8）

朗　読　者　主はマムレの樫の木の所でアブラハムに現れた。暑い真昼に、アブラハムは天幕の入り口に座っていた。目を上げて見ると、3人の人が彼に向かって立っていた。アブラハムはすぐに天幕の入り口から走り出て迎え、地にひれ伏して、言った。「お客様、よろしければ、どうか、しもべのもとを通り過ぎないでください。水を少々もって来させますから、足を洗って、木陰でどうぞひと休みなさってください。何か召し上がるものを調えますので、疲れをいやしてから、お出かけください。せっかく、しもべの所の近くをお通りになったのですから」。その人たちは言った。「では、おことばどおりにしましょう」。アブラハムは急いで天幕に戻り、サラのところに来て言った。「早く、上等の小麦粉を3セアほどこねて、パン菓子をこしらえなさい」。アブラハムは牛の群れのところへ走って行き、柔らかくておいしそうな子牛を選び、召し使いに渡し、急いで料理させた。アブラハムは、凝乳、乳、出来立ての子牛の料理などを運び、彼らの前に並べた。そして、彼らが木陰で食事をしている間、そばに立って給仕をした。

応答の詩編　詩篇138編

朗　読　者　わたしは心を尽くして感謝し
神のみ前でほめ歌をうたいます。
聖なる神殿に向かってひれ伏し
あなたのいつくしみとまことのゆえに
　　み名に感謝をささげます。
そのみ名のすべてにまさって、
　　あなたは仰せを大いなるものとされました。

会　　衆　**呼び求めるわたしに、あなたは答えてくださいました。**

朗　読　者　呼び求めるわたしに答え、
あなたは魂に力を与え
解き放ってくださいました。
地上の王は皆、あなたに感謝をささげます。
あなたの口から出る仰せを彼らは聞きました。
会　　衆　**呼び求めるわたしに、あなたは答えてくださいました。**

朗　読　者　主の道について彼らは歌うでしょう
主の大いなる栄光を。
主は高くいましても
低くされている者を見ておられます。
遠くにいましても
傲慢な者を知っておられます。
会　　衆　**呼び求めるわたしに、あなたは答えてくださいました。**

朗　読　者　わたしが苦難の中を歩いているときにも
敵の怒りに遭っているときにも
わたしにいのちを得させてください。
み手を遣わし、右のみ手でお救いください。
主はわたしのために
　すべてを成し遂げてくださいます。
主よ、あなたのいつくしみが
　とこしえにありますように。
み手のわざをどうか放さないでください。
会　　衆　**呼び求めるわたしに、あなたは答えてくださいました。**

朗　読　者　栄光は父と子と聖霊に。
会　　衆　**初めのように今もいつも世々に。アーメン。**

福音書朗読　ルカ（10・25 － 37）

朗　読　者　すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか」。イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります」。イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすればいのちが得られる」。しかし、彼は自分を正当化しようとして、「では、わたしの隣人とはだれですか」と言った。イエスはお答えになった。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、追いはぎに襲われた。追いはぎはその人の服をはぎ取り、殴りつけ、半殺しにしたまま立ち去った。ある祭司がたまたまその道を下って来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。同じように、レビ人もその場所にやって来たが、その人を見ると、道の向こう側を通って行った。ところが、旅をしていたあるサマリア人は、そばに来ると、その人を見てあわれに思い、近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして、自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。そして、翌日になると、デナリオン銀貨２枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います』。さて、あなたはこの３人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」。律法の専門家は言った。「その人を助けた人です」。そこで、イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい」。

賛歌

説教

（説教の後は沈黙、ないしは賛歌）

愛の宣言　（一コリント 13 章参照）

（会衆が二手に分かれて交唱する）

会　衆　1　**たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも**
愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。

会　衆　2　**たとえ、預言するたまものをもち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも**
たとえ、山を動かすほどの完全な信仰をもっていようとも、愛がなければ、無に等しい。

会　衆　1　**全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも**
誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

会　衆　2　**愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。**
愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

会　衆　1　**不義を喜ばず、真実を喜ぶ。**
すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

会　衆　2　**愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう。**

会　　衆　**信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。**
その中でもっとも大いなるものは、愛である。

賛歌

（この間に献金を集めることもできる）

執り成しの祈り

司　式　者　わたしたちは、神を愛し、隣人を自分のように愛するようにという神の召命を生きるよう招かれています。わたしたちがこの召命への専心を新たにする中で、この愛がキリスト者としての一致を強めますように。

朗　読　者　わたしたちは心を込めて、神の愛に包まれ、隣人を自分のように愛する恵みを得たいと願います。
限りなくわたしたちを愛してくださる神よ、わたしたちは、すべての人があなたの限りないいつくしみを知り、限りない愛でわたしたちを満たしたいというあなたの望みを信じることができるよう祈ります。

会　　衆　**わたしたちをあなたの愛で満たしてください。あなたのうちに、一つとなりますように。**

朗　読　者　ご自分に従うすべての人の一致のために祈られたイエスの祈りに合わせて、わたしたちも祈ります。
交わりの神よ、わたしたちがあなたの大いなる栄光のためにともに働き、すべての人のために、救いの福音を広められるよう祈ります。

会　　衆　**わたしたちをあなたの愛で満たしてください。あなたのうちに、一つとなりますように。**

朗　読　者　この世の混乱と分裂のために、わたしたちの心は傷ついています。いやしの神よ、羊飼いのいない羊のように散らばっているわたしたちを、一つの群れに集めてください。あなたの霊（みたま）

でわたしたちを力づけ、世の光、地の塩となるように、あらためてわたしたちを、2人ずつ遣わしてください。

会　　衆　**わたしたちをあなたの愛で満たしてください。あなたのうちに一つとなりますように。**

朗　読　者　わたしたちの世界はテロと暴力によって傷ついています。何百万人もの人が、保護と安全を求めて家を追われています。
全ての人を迎え入れてくださる神よ、わたしたちが見ず知らずの人を受け入れる危険を冒し、彼らの傷を手当てし、彼らと連帯する恵みをお与えください。親切でいつくしみ深くあって、あなたがわたしたちになさるように、いつも姉妹や兄弟たちに対して行動する決意を強めてください。

会　　衆　**わたしたちをあなたの愛で満たしてください。あなたのうちに、一つとなりますように。**

朗　読　者　弱さと恐れのゆえに、わたしたちはしばしば、助けを必要としている人から目を背け、道の向こう側を通り過ぎてしまうと分かっています。
力ある神よ、わたしたちの愛が足りないにもかかわらず、あなたの愛の奥行、幅、高さ、深さを経験できるよう、わたしたちの心を開いてください。

会　　衆　**わたしたちをあなたの愛で満たしてください。あなたのうちに一つとなりますように。**

主の祈り

司　式　者　唯一の神の子として、イエスが教えてくださった祈りをともに祈りましょう。

会　　衆　**天におられるわたしたちの父よ、**
み名が聖とされますように。

み国が来ますように。
みこころが天に行われるとおり地にも行われますように。
わたしたちの日ごとの糧を今日も お与えください。
わたしたちの罪をおゆるしください。わたしたちも人をゆるします。
わたしたちを誘惑におちいらせず、
悪からお救いください。
国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。
(聖公会・カトリック共通)

賛歌

閉式の祈り

会　　衆　**わたしたち皆が一つになるようにと祈られた主イエス、**
み旨に従い、みわざに従い、
キリスト者の一致のために主に祈ります。
あなたの霊によってわたしたちが、
分裂による苦しみを自覚し、自らの罪に目を向け、あらゆる希望を超えた希望を抱くことができますように。アーメン。[7]

派遣

(以下の司式者のことばに合わせて、水の入ったカラバッシュ、または容器が前に運ばれ、会衆の前で高く掲げられる)

司　式　者　いのちの水によって清められ、神を愛し、隣人を自分のように愛するために、キリストのうちに結ばれ、聖霊によって生かされながら歩みましょう。

会　　衆　**ともにできることは何でも、ともに行いましょう。**

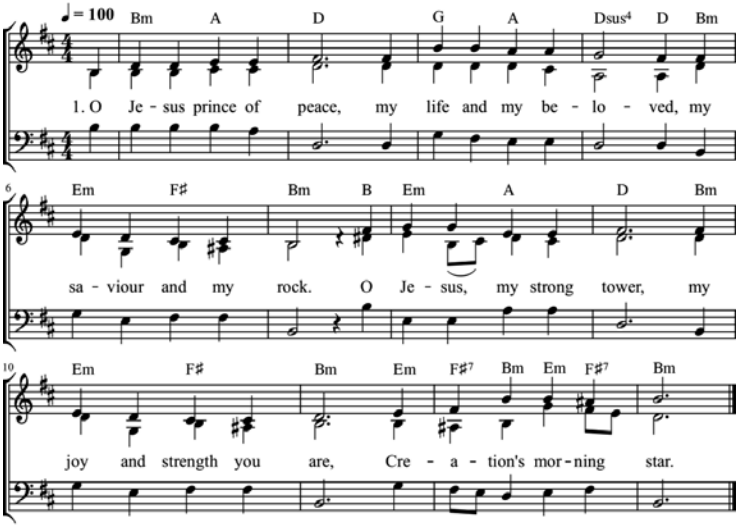
賛歌

[7] シュマン・ヌフ共同体の、キリスト教一致のための日々の祈り 47 ページを参照。

付録*

Suggested songs for use during the Worship*

O Jesus Prince of Peace



1. O Jesus prince of peace,
my life and my beloved,
my saviour and my rock.
O Jesus, my strong tower,
my joy and strength you are,
Creation's morning star.

2. O Jesus, living Word
Bread broken for all people
And strength upon their way
O Jesus, flame of love
The broken spirit's rest
The Truth, the light of day.

3. O Jesus, risen Son
The hope of every nation
My one consoling friend
O Jesus, Master, King
My brother through your blood
My Saviour and my God.

Bm A D
G A D4 D
Em F# Bm
B Em A D
Em F# Bm
F# Bm

3. O Jesus, rising sun
On all our human suffering
My shepherd and my hope
O Jesus promised land
My treasure, my sole good
My maker and my Lord.

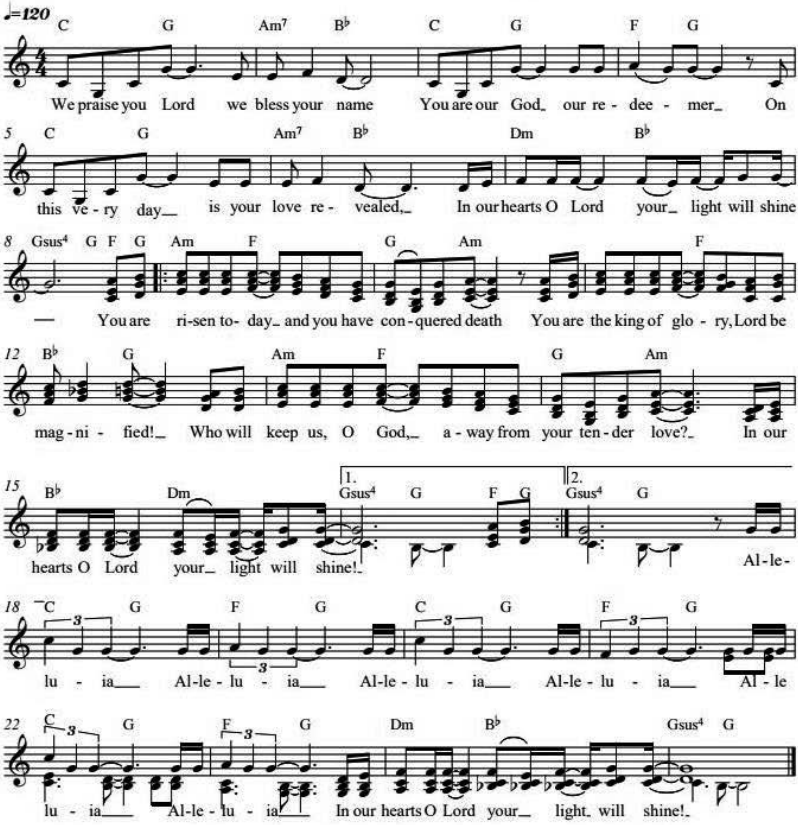
Original Title (FR) : Jésus prince de paix
Text and Music : Chemin Neuf Community
© 1992 Les Ateliers du Chemin Neuf
Desert Day, Friday, Hymn for Morning Prayer in Ordinary Time, Morning, Ordinary Time
SECLI : D621

＊これらの賛歌は、2024 年キリスト教一致祈祷週間の初稿を準備したブルキナファソの執筆グループによって提案されたものである。

*. These songs are proposed by the writing group from Burkina Faso which prepared the first draft of the Week of Prayer for Christian Unity 2024.

WE PRAYSE YOU LORD

Words and music: Chemin Neuf Community



© Audiovisuel Musique Evangélisation AME - Réf. CD8-14
10 rue Henri IV, 69287 Lyon Cedex 02 - www.ame-boutique.com

八日間の聖書の黙想と祈り

第１日　　主よ、あなたに向かって人生を歩めるよう助けてください

朗読箇所

ルカ 10･25　ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか」。

（その他の朗読箇所）

ローマ 14・8 － 9

詩編 103・13 － 18

黙想

「何をしたら、永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか」。律法の専門家がイエスに尋ねたこの重要な問いは、神を信じる一人ひとりに投げかけられています。それはわたしたちの地上でのいのち、そして永遠のいのちの意味に影響します。聖書の他の箇所でイエスは、永遠のいのちの究極的な意味を示しています。「……唯一のまことの神であられるあなたと、あなたのお遣わしになったイエス・キリストを知ることです」（ヨハネ 17・3）。神を知るとは、自分の人生において神のみ旨を見いだし、実行することです。人は皆、十全な真のいのちを望んでおり、神もわたしたちにそれを望んでおられるのです（ヨハネ 10・10 参照）。聖イレネオ司教殉教者は「神の栄光とは、十全に生きている人間である」と言いました。

分裂、利己主義、苦悩といったいのちの実存的な現実は、しばしばわたしたちを神への探求から遠ざけます。イエスは、御父との親密な交わりの神秘を生きられました。その御父は、ご自分の永遠のいのちの充満ですべての子らを満たすことを望んでおられます。イエスは、わたしたちの究極の目標である御父へと導く「道」なのです。

このように、永遠のいのちを求めることで、わたしたちはイエスに近づき、

さらに、そうすることによって互いに接近し、キリスト教一致へと向かう道において親密さを深めるのです。わたしたち皆がすべての教会のキリスト者との友情と協力に心を開き、主の食卓にともに着くことができる日のために祈りましょう。

祈り

いのちである神よ、
あなたはわたしたちがいのちを、しかも満ちあふれるいのちを得るよう創造されました。
わたしたちが兄弟姉妹のうちに、永遠のいのちへの望みを見いだすことができますように。
決意をもってイエスの道に従うときに、他の人々をあなたのもとへと導くことができますように。
イエスのみ名によって祈ります。アーメン。

第２日　　主よ、全存在をかけてあなたを愛し、隣人を愛し、自分を愛せるよう助けてください

朗読箇所

ルカ 10・27　彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります」。

（その他の朗読箇所）

申命記 10・12 － 13

詩編 133

黙想

この律法の専門家の答えは、よく知られた神のおきてから導き出された単純なものに思えるかもしれません。しかし、このように神を愛し、隣人を自分のように愛するのは、往々にして難しいことです。

神を愛せ、というそのおきてには強い決意が必要であり、それは自分自身を完全に捨て去り、神のみ旨に仕えるために心と思いを差し出すことを意味します。わたしたちは、キリストの模範に倣う恵みを求めることができます。キリストは自らを完全に明け渡し、「わたしの願いではなく、み心のままに行ってください」（ルカ 22・42）と言われました。キリストはまた、敵を含め、すべての人に大きな愛を示されました。わたしたちは隣人を選ぶことはできません。彼らを愛するということは、彼らのニーズに注意を払い、彼らの不完全さを受け入れ、彼らの希望と願いを後押しすることです。キリスト教一致の道においても、互いの異なる伝統に対して同じ態度が必要です。

隣人を「自分自身のように」愛せ、という呼びかけは、つねにゆるしを用意し、わたしたちを見つめる神のいつくしみのまなざしを心に留めながら、ありのままの自分を受け入れる必要性を思い起こさせます。わたしたちは神に愛された被造物であることを思ってください。自分自身を大切にしてください。自分自身に対する平和を求めてください。それと同じく、わたしたち一人ひとり

は、聖霊を通してわたしたちを回復させてくださる御父にすべてをゆだねながら、自らの教会や共同体をその欠点も含めて、愛し、受け入れる恵みを求めることができるのです。

祈り

主よ、あなたをより深く知る恵みをお与えください。
全存在をかけてあなたを愛するためです。
隣人を自分のように愛する純粋な心をお与えください。
あなたの聖霊のたまものによって、
姉妹や兄弟に、あなたの存在を見ることができますように、
あなたが愛してくださるのと同じ、無償の愛をもって、わたしたちが互いに
愛し合うことができますように。
わたしたちの主キリストによって。アーメン。

第３日　主よ、わたしたちには見えていない人々に対し心を開かせてください

朗読箇所

ルカ 10・29 「では、わたしの隣人とはだれですか」。

（その他の朗読箇所）

ローマ 13・8 － 10

詩編 119・57 － 63

黙想

律法の専門家は、自分が愛すべき隣人は、自分と同じ信仰、同じ民族の人であってほしいと願い、自己を正当化しようとしました。これは人間の自然な本能です。人を家に招くとき、その人は社会的地位や人生観、価値観を共有できる人であることがほとんどです。慣れ親しんだ場所を好むのは人間の本能です。これは教会共同体にも当てはまります。しかしイエスは、宗教、文化、社会的地位に関係なく、すべての人を歓迎して愛さなければならないという義務を思い起こさせることで、律法の専門家とその幅広い支持層を、彼ら自身の伝統へと深く引き込んでいくのです。

福音は、自分と同じような人を愛することは特別なことではないと教えます。イエスは、人間であることの意味の根本的なビジョンへとわたしたちを導きます。このたとえ話は、キリストがわたしたちに期待なさっていること、つまり、心を大きく開いて、キリストがわたしたちを愛したように他者を愛し、キリストの道を歩むことを、目に見える形で示しています。事実、イエスは律法の専門家に別の質問で答えています。「わたしの隣人とはだれか」ではなく、「困っている人の隣人であることを示したのはだれか」です。

不安と恐れに満ちた現代にあって、人間関係において不信と不確かさが前面に押し出される現実をわたしたちは突きつけられています。だれにとって、わたしは隣人なのでしょうか。

祈り

愛である神よ、

わたしたちの心に愛を刻み、

わたしたちが自己を超えて相手を見、自分とは違った人々に隣人を見いだす勇気を与えください。

兄弟であり、友であるイエス・キリストに、真に従うことができますように。

キリストはわたしたちの主。今もいつも世々に。アーメン。

第４日　助けを必要としている人たちから目を背けることがありませんように

朗読箇所

ルカ 10・31　その人を見ると、道の向こう側を通って行った。

（その他の朗読箇所）

イザヤ 58・6 － 9a

詩編 34・15 － 22

黙想

道の向こう側を通って行った祭司とレビ人は、宗教上の正当な理由があって助けなかったのかもしれません。つまり、彼らはある宗教的儀式を行うことになっていたのかもしれず、もしその人が死んでいたのなら、儀式を汚してしまう危険性があったかもしれないのです。しかし、イエスはいくつもの場面で、つねに善を行う義務よりも、宗教上の規律を優先させる宗教指導者たちを批判しています。

一致祈祷週間の聖書箇所の冒頭には、律法の専門家がどのように自分を正当化しようとしたかが書かれています。たとえ話に出てくる祭司とレビ人は、自分たちのしたことは正当化されると感じたことでしょう。キリスト者として、わたしたちはどこまで規範を超えられるでしょうか。時にわたしたちは、教会的、文化的条件によって近視眼的になり、他のキリスト教伝統の姉妹や兄弟たちの生活やあかしが明かしているものを理解できないことがあります。同胞であるキリスト者によって、神の愛がどのように明かされているかを理解するよう目を開くとき、わたしたちは彼らに歩み寄り、彼らとのより深い一致へと引き寄せられるのです。

このイエスのたとえ話は、わたしたちに善を行うよう促すだけでなく、視野を広げるようにも促します。わたしたちは、何が善であり聖であるかを、信条や宗教的な世界観を共有する人々からだけでなく、自分たちとは違った人々から学ぶことも多いのです。よいサマリア人とは、多くの場合、わたしたちが予

期していない人なのです。

祈り

主イエス・キリスト、
あなたとともに一致に向かって旅するとき
目をそらさずに
世界に対して大きく見開いていられますように。
わたしたちが人生を旅するとき
立ち止まり、手を差し伸べて、傷ついた人々をいやし、
それによって、彼らのうちに主の現存を感じることができますように。
あなたは、今もいつも世々に生き、支配しておられます。アーメン。

第５日　　主よ、わたしたちが傷を見て、希望を見いだせるよう助けてください

朗読箇所

ルカ 10・34　近寄って傷に油とぶどう酒を注ぎ、包帯をして……

（その他の朗読箇所）

ヨエル 2・23 － 27

詩編 104・14 － 15、27 － 30

黙想

よいサマリア人は、自分自身のもっているものからできることをしました。つまり、ぶどう酒と油を注ぎ、男の傷に包帯を巻き、自分のろばに乗せました。さらに、その治療費を支払う約束までしました。サマリア人の目を通して世界を見れば、どんな状況でも困っている人を助ける機会になりえます。そこに愛が現れるのです。よいサマリア人の模範は、隣人に対してどのように対すべきかを自問する動機づけとなります。彼はぶどう酒と油を与え、その人を回復させ、希望を与えました。傷ついた世界をいやす神のわざの一部となるために、わたしたちは何を与えることができるでしょうか。

この傷は、不安、恐れ、不信、分裂という形でわたしたちの世界に現れています。恥ずべきことですが、こうした分裂はキリスト者の間にも存在します。わたしたちは秘跡やいやし、和解、慰めの儀式を、しばしば油とぶどう酒を用いて祝っていながら、キリストのからだを傷つける分裂にとどまっています。わたしたちキリスト者の分裂をいやすことで、諸国のいやしは促進されます。

祈り

恵み深い神よ、

あなたはすべての愛と善の源です。

わたしたちが隣人の必要を理解できるようにしてください。

いやしをもたらすために、何ができるかを示してください。

すべての兄弟姉妹を愛せるように、わたしたちを変えてください。
分裂という障害を克服し、
共通善に向けて平和な世界を築けるよう助けてください。
あなたが被造界を新たにされることを感謝し、
希望に満ちた未来へと導いてくださることに感謝します。
昨日も、今日も、永遠に、すべてのものの主である神に。
アーメン。

第６日　主よ、わたしたちの教会を、助けを必要としている人を迎え入れる「宿屋」にしてください

朗読箇所

ルカ 10・34　自分のろばに乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

（その他の朗読箇所）

創世記 18・4 － 5

詩編 5・11 － 12

黙想

追いはぎに襲われた人を介抱したのはサマリア人でした。サマリア人は先入観や偏見を超えて見ました。困っている人を見て、宿屋に連れて行きました。「翌日になると、デナリオン銀貨２枚を取り出し、宿屋の主人に渡して言った。『この人を介抱してください。費用がもっとかかったら、帰りがけに払います』」（ルカ 10・35）。

どのような人間社会においても、ホスピタリティと連帯は不可欠です。見知らぬ人、外国人、移住者、ホームレスの人を歓迎しなければなりません。しかしながら、不安、疑い、暴力に直面すると、隣人に不信感を抱きがちです。ホスピタリティは、とりわけ宗教的・文化的多元主義の文脈において、福音の重要なあかしとなります。「他者」を歓迎すること、そして逆に歓迎されることは、エキュメニカルな対話の核心です。キリスト者は自らの教会を、わたしたちの隣人がキリストを見いだすことのできる宿屋へと変えるよう求められています。そのようなホスピタリティは、わたしたちの教会が互いに対し、またすべての人に対して示す愛のしるしなのです。

キリストに従う者として、宗派の伝統を超え、エキュメニカルなホスピタリティを実践することを選択するならば、わたしたちはよそ者から隣人へと変わるのです。

祈り

愛である父よ、

あなたは、わたしたち傷つきやすい人類を心にかけ、

イエスのうちに、ホスピタリティの意味をお示しになりました。

わたしたちが、すべての人を歓迎する家を建て、

見捨てられ、道に迷ったと感じている人々を迎え入れる共同体となれるよう、

助けてください。

あなたの無償の愛を世界に届けながら、

わたしたちが互いに親しさを増すことができますように。

聖霊との一致のうちに祈ります。アーメン。

第７日　　主よ、隣人にどのように応えるべきか、示してください

朗読箇所

ルカ 10・36 （イエスはお答えになった。）「さて、あなたはこの 3 人の中で、だれが追いはぎに襲われた人の隣人になったと思うか」。

（その他の朗読箇所）

フィリピ 2・1 － 5

詩編 10・17 － 18

黙想

たとえ話の最後、イエスは律法の専門家に、襲われた人の隣人はだれだったかと尋ねました。彼は「その人を助けた人です」と答えます。「サマリア人」だとは言いませんでした。サマリア人とユダヤ人の間に敵意があったため、その答えを認めるのは難しかったのでしょう。わたしたちはしばしば、思いがけない人々の中に、その名前や出自を口にすることすらはばかられる人々の中にさえ、隣人を見いだすことがあります。政治が二極化し、異なる宗教的アイデンティティをもつ人々が互いに対立しがちな現代世界において、イエスはこのたとえ話を通して、国境や隔ての壁を越えるという、わたしたちの召命の重要性を理解するよう問いかけています。

律法の専門家のようにわたしたちは、単に善を行っているかどうかという観点からではなく、祭司やレビ人のように、あわれみ深い行動を怠っていないかどうかという観点から、自分の生き方を振り返るよう求められています。

祈り

聖なる神よ、

あなたの御子イエス・キリストはわたしたちのうちに来られ、

あわれみの道をお示しになりました。

わたしたちがその模範に従い、

あなたのすべての子どもたちの必要にこたえられるよう、

あなたの霊によって助けてください。
そうして、あなたの愛とあわれみの道に、一致したキリスト者のあかしを示してください。
イエスのみ名によって祈ります。アーメン。

第８日　　主よ、わたしたちの友情がみ国のしるしとなりますように

朗読箇所

ルカ 10・37　イエスは言われた。「行って、あなたも同じようにしなさい」。

（その他の朗読箇所）

ローマ 12・9 － 13

詩編 41・1 － 2

黙想

「行って、あなたも同じようにしなさい」というこのことばを通して、イエスはわたしたちそれぞれが、そしてわたしたちの教会それぞれが、イエスの愛のおきてを実践するようお遣わしになります。聖霊に促されてわたしたちは、あわれみといつくしみのうちに、苦しむ人類に手を差し伸べる「もう一人のキリスト」として派遣されるのです。よいサマリア人が傷ついた人に手を差し伸べたように、わたしたちは異質な人を拒絶するのではなく、親しみと善意の文化をはぐくむことを選択できるのです。

「行って、あなたも同じようにしなさい」というイエスの招きは、わたしの人生にどのように語りかけているでしょう。このキリストの招きは、他の諸教会のメンバーとのわたしの関係にどのような意味をもっているのでしょう。どのようにしたら、神の愛を誠意をもってともにあかしすることができるのでしょう。キリストの使者として（二コリント 5・20 参照）、わたしたちは神と和解し、互いに和解するよう招かれています。それは、わたしたちの教会の中に、またサヘル地域のように地域間紛争の影響を受けている地に交流を根づかせ、成長させるよう求められているのです。

相互の信頼と信用が増すにつれ、教会の傷も含め、わたしたちは自らの傷を進んで露わにするようになり、互いの愛とケアを通してキリストの愛がわたしたちに訪れ、いやしてくださるようになるのです。キリスト教一致のためにともに尽力することは、関係を再構築し、暴力が連帯と平和に道を譲る助けとなるのです。

祈り

天の父よ、

いのちの与え主である聖霊のたまものに感謝します。

聖霊はわたしたちを互いに打ち解けさせ、争いを解決し、

交わりのきずなを強めてくださいます。

わたしたちが互いの愛を深め、

福音のメッセージをより誠実に告げ知らせるという望みのうちに、

世界が一つになって、

平和の君を迎えることができますように。

わたしたちの主キリストによって。アーメン。

ブルキナファソのエキュメニズム状況[8]

ブルキナファソのキリスト教諸教会は、一致の必要性を感じるようになり、さまざまなエキュメニカル団体が結成されました。その中には、会長・アンリ・イエ牧師の「福音教会・伝道団連盟（FEME）」や、ワガドゥグー国際教会のカリム・ゾンゴ牧師が率いる、FEME に加盟していないプロテスタント教会のグループである「福音教会・伝道団・奉仕者協議会（CEMMEB）」などがあります。また、ムームーニ・ウェドラオゴ牧師が率いる「ブルキナファソ改革福音教会連合」があります。これは最近できた、地元の教会グループで、西アフリカキリスト教協議会・教会フェローシップ、全アフリカ教会会議、世界改革派教会共同体、世界教会協議会のメンバーです。

カトリック教会については、2014 年 2 月に、ブルキナ・ニジェール司教協議会通常総会でエキュメニズムに関する会合が開かれ、アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団が参加しました。同協議会はエキュメニカル対話のための司教委員会を設置し、ブルキナファソに存在するさまざまな教会共同体と、「バプテスマ、聖餐、教会の職務」に関する『リマ文書』（世界教会協議会信仰と職制委員会、1982 年）の受容に関する研究に着手しました。研究のおもな焦点は、洗礼の相互承認と、克服すべき課題についてで、2017 年 11 月、「ポール・ズングラナ枢機卿ナショナル・センター」で研究のまとめが作成されました。

キリスト者たちの間には、キリストにおける一致を再発見しようという意識と願いが生きています。ブルキナファソの諸教会は、キリスト者間の分裂が教会を傷つけるだけでなく、キリストとわたしたちキリスト者をも傷つけていることを自覚しており、そこで橋をかけ、「もう後戻りはできないとしてエキュメニズムを探究する道」に自らをかけ、

「こうして……主の霊に耳を傾けたのです」[9]

[8] 本文書は、「2024 年キリスト教一致祈祷週間」の原文を作成した、ブルキナファソの現地グループ独自の権限と責任のもとにここに再録されたもの。

[9] 教皇ヨハネ・パウロ二世回勅『キリスト者の一致』3（1995 年）。

エキュメニカル対話の場

エキュメニカル対話に向けての教会間の協力があります。一つの重要な例が、聖書の翻訳に関する聖書協会の活動で、国内のさまざまな言語で聖書が読めるようになっています。聖書は、「聖書の日」や「聖書月間」を通じて配布されています。

「霊的エキュメニズム」は、ブルキナファソにおけるエキュメニズム活動の中枢として知られる「キリスト教一致祈祷週間」を通して実践されています。この期間中、小教区では合同コンサートを開催することもあります。カトリック教会と他のいくつかの共同体は、三位一体の定式に従って水で洗礼を授ける他のキリスト教諸派の洗礼を認めています。聖書に基づいた一致に関するエキュメニカル対話の具体的成果や、活動に関する対話における連帯は明らかです。

認識しうる困難

キリスト者の一致の働きの推進力には、いくつかの障害が見られます。動機づけや熱意の欠如、互いへの恐れ、疑念、不信といった態度の持続、エキュメニカルな課題について教会内で養成された人材の不足、代表性の問題、洗礼の相互承認の問題、学術的対話のフォーラムや混宗婚についての合同講座の欠如、などです。

これらの困難について、ブルキナファソのキリスト教諸教会や教派は、教皇ヨハネ・パウロ二世の次の問いかけを自らのものとしうるのです。「わたしたちは、あの喜びの日、信仰の完全な一致が実現し、心を合わせて主のエウカリスチアを祝うようになる日まで、どのくらいかかるだろうか」[10]。

かすかな希望の光

教会間のより深い関係と和解に向けて、いくつかのステップが考えられます。たとえば、キリスト教一致祈祷週間やその他のエキュメニカルな祈りと礼拝を深め、共同で開催すること、教会間の表敬訪問の促進、エキュメニズムに関する公文書の翻訳、エキュメニズムの精神に沿ったキリスト者の養成、混宗婚の

[10] 同 77。

カップルの準備と支援におけるシュマン・ヌフ共同体の経験の活用、霊的体験の共有などです。諸教会が、その司牧計画にエキュメニカルな取り組みを取り入れ、司牧担当者やすべての信者の間でエキュメニカルな養成を促進することが求められます。

誤った融和主義に陥ることなしに、真のエキュメニカル対話を行うには、改宗主義を排した、真の霊的、司牧的、教会的回心が不可欠です。キリスト教一致は、父と子と聖霊の愛にその源泉と究極目的を有するものであり、祈りのうちに神に立ち帰るべき恵みなのです。

「シュマン・ヌフ（新しい道）共同体」の紹介

シュマン・ヌフ共同体は、エキュメニカルな召命を受けたカトリック共同体で、1973 年にリヨン（フランス）で誕生し、現在では五大陸に広がっています。多くの新しい共同体と同じく第二バチカン公会議のダイナミズムに触発され、この共同体もまた、イグナチオの伝統とカリスマ刷新の体験、つまり聖霊における生活に根ざしています。異なる国、異なる文化圏から来たカップル、奉献された兄弟姉妹、女性と男性が、キリストに従う共同生活という冒険を選んでいます。同じ場所、または同じ屋根の下で生活し、分かち合うことによって実際には自分の持ち物が増えるという経験を日々しています。自分がどんな人間であるかを分かち合うことで、彼らはいっそう真の兄弟姉妹となるのです。日々の生活を分かち合うこの謙遜な道で、とくに和解の課題に取り組むとき、違いが出会うということがどれほど豊かなものであるかを体験するのです。こうした交わりから、共同体の核となる喜びと祝福が生まれます。

30 か国、80 教区に、2,400 人のシュマン・ヌフ共同体の会員がいて、その中には 120 人の司祭を含む 400 人の独身の奉献生活者がいます。共同体の創立者はローラン・ファーブル神父です。2016 年にフランソワ・ミション神父が共同体のリーダーを引き継ぎました。ブルキナファソでは、シュマン・ヌフ共同体は約 70 人の奉献した会員を擁し、その多くは夫婦ですが、司祭やシスターもいます（詳細については、https://www.chemin-neuf.fr、または http://

bf.chemin-neuf.org 参照)。

シュマン・ヌフ共同体はエキュメニカルな召命を受けています。「すべての人を一つにしてください」(ヨハネ 17・21)。「わたしたちは目に見える教会の一致を固く信じ、その一致のために力を尽くして働くよう呼びかけられています」(『会憲』20 ページ)。イエスは一致のために祈られた最初のかたであり、シュマン・ヌフ共同体のメンバーはその祈りを自分たちのものとしたいと願っています。「ともにできることは何でもやりましょう」。カトリック、プロテスタント、福音派、ペンテコステ派、正教会、英国国教会それぞれの信者は、日常生活をともにし、宣教をともに行います。それは、そのすべての子らに対する御父の愛をともにあかしするためです。この旅路の中で、彼らはさまざまなエキュメニカルな養成を提供し、それぞれの教会を巻き込み、周囲の人々と強い絆を築くことを願っています。

「シュマン・ヌフ共同体」による キリスト教一致の祈り

キリスト教一致祈祷週間の先駆者、
ポール・クチュリエ修道院長の祈りからヒントを得て

わたしたち皆が一つになるようにと祈られた主イエス、
み旨に従い、みわざに従い、
キリスト者の一致のために主に祈ります。
あなたの霊によってわたしたちが、
分裂による苦しみを自覚し、自らの罪に目を向け、あらゆる希望を超えた希望を抱くことができますように。アーメン。

「シュマン・ヌフ共同体」による
キリスト教一致の時課

空のカリスとパテナというシンボル

シュマン・ヌフ共同体のメンバーは日々、聖霊を通してイエスに、「たもとを分かったことによる苦悩を自覚できるようにしてください」と祈ります。

このことの表現と自覚のため、わたしたちがたもとを分かっていること、分裂した罪の象徴として、2 人の人が空のカリスとパテナを運びながら行列し、祭壇の上に置きます。同時に、祈る人たちは、いつの日かわたしたち皆が同じ食卓につき、ともにパンを裂く日が来ることを信じ、「希望を超えた希望を抱く」ことを願います。イエスはこう言われました。「わたしの記念としてこのように行いなさい」（ルカ 22・19）。

詩編 122 の歌

（通常は、空のカリスとパテナをもって行列が祭壇に向かう際にこの行列の間に、会衆は詩編 122 を歌います。この詩編のことばは、一致が約束された聖なる都エルサレムへと向かう歩み、巡礼に言及しています）

主の家に行こう、と人々が言ったとき
わたしはうれしかった。
エルサレムよ、あなたの城門の中に
わたしたちの足は立っている。
エルサレム、都として建てられた町。
そこに、すべては結び合い
そこに、すべての部族、主の部族は上って来る。
主のみ名に感謝をささげるのはイスラエルの定め。
そこにこそ、裁きの王座が
ダビデの家の王座が据えられている。

エルサレムの平和を求めよう。
「あなたを愛する人々に平安があるように。
あなたの城壁のうちに平和があるように。
あなたの城郭のうちに平安があるように」。

わたしは言おう、わたしの兄弟、友のために。
「あなたのうちに平和があるように」。
わたしは願おう
　　わたしたちの神、主の家のために。
「あなたに幸いがあるように」。

通常の礼拝式次第

歓迎と紹介

（空のカリスとパテナの説明や、キリスト教一致のための特別の祈りと併せて）

開会

神よ、助けに来てください

主よ、早くわたしたちを救い出してください。

栄光は父と……

詩編 122（「主の家に行こう」と人々が言ったとき、わたしはうれしかった）

（祭壇へと向かう空のカリスとパテナの行列とともに、立って聖歌として歌われる）

聖歌

（一つか二つの詩編ないし聖歌を、各詩編の前後に答唱を入れて、着座して歌う）

聖書朗読

（朗読の間は全員着席。その後、説教、分かち合い、教会の紹介、エキュメニカルな行事の紹介、キリスト者の作家の著作朗読などを行うことができる）

ザカリアの賛歌（ルカ 1・68 ― 79）

（各賛歌の前後に答唱を入れて、立って歌う）

執り成しの祈り

（教会、その指導者、特定の教会行事のための祈願［または、感謝や祝福］も含む）

キリスト教一致の祈り

（47 ページ参照）

主の祈り

閉会の祈り

結び

主を賛美しましょう。

神に感謝。

◇ キリスト教一致祈祷週間のテーマ一覧（1968–2024 年）◇

1968 年、世界教会協議会（WCC）信仰職制委員会と、教皇庁キリスト教一致推進評議会が共同発行した冊子が初めて使用されました。

1968　神の栄光をほめたたえるに至るために（エフェソ 1･14）

1969　自由への召し（ガラテヤ 5･13）

1970　わたしたちは神の同労者である（一コリント 3･9）

1971　聖霊の交わり（二コリント 13･13）

1972　わたしは新しいおきてをあなたがたに与える（ヨハネ 13･34）

1973　主よ、祈ることを教えてください（ルカ 11･1）

1974　すべての舌が「イエス・キリストは主である」と告白するように（フィリピ 2･1－13）

1975　すべてはキリストのもとに（エフェソ 1･3－10）

1976　わたしたちはまことの姿になるよう召されている（一ヨハネ 3･2）

1977　ともに希望をもって屈せず（ローマ 5･1－5）

1978　もはや他人ではない（エフェソ 2･13－22）

1979　み栄えのため互いに仕えよう（一ペトロ 4･7－11）

1980　み国が来ますように（マタイ 6･10）

1981　一つの霊　多くの賜物　一つの体（一コリント 12･3b－13）

1982　主こそわがやどり（詩編 84）

1983　イエス・キリスト－この世の生命（一ヨハネ 1･1－4）

1984　主の十字架は一致への道（一コリント 2･2, コロサイ 1･20）

1985　キリストとともに死から生命へ（エフェソ 2･4－7）

1986　我が証人となれ（使徒言行録 1･6－8）

1987　キリストにあってともに新しく（二コリント 5･17－6･4a）

1988　愛は恐れをとりのぞく（一ヨハネ 4･7－21）

1989　キリストに結ばれて一つのからだに（ローマ 12･1－21）

1990　キリストの祈りのうちに（ヨハネ 17）

1991　すべての国よ、主を賛美せよ（詩編 117, ローマ 15･5－13）

1992　わたしはあなたがたとともにいる。だから行きなさい。（マタイ 28·16－20）

1993　聖霊の実はキリスト者の一致を生む（ガラテヤ 5·22－23）

1994　神の家族・心も思いも一つにして（使徒言行録 4·23－37）

1995　コイノニア・神にある交わり、お互いの間の交わり（ヨハネ 15·1－17）

1996　見よ、わたしは戸口に立って、たたいている（黙示録 3·14－22）

1997　神と和解させていただきなさい（二コリント 5·16－21）

1998　“霊”は弱いわたしたちを助けてくださる（ローマ 8·14－27）

1999　神が人と共に住み、その神となり、人は神の民となる（黙示録 21·3）

2000　神はほめたたえられますように。神はわたしたちをキリストにおいて祝福で満たしてくださった（エフェソ 1·3－14）

2001　わたしは道、真理、いのち（ヨハネ 14・6）

2002　神よ、命の泉はあなたにある（詩編 36・6－10）

2003　わたしたちは、このような宝を土の器に納めています（二コリント 4·7）

2004　わたしの平和を与える（ヨハネ 14・27）

2005　教会の土台であるキリスト（一コリント 3・1－23）

2006　二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいる（マタイ 18・18－20）

2007　耳の聞こえない人を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにしてくださる（マルコ 7・31 － 37）

2008　絶えず祈りなさい（一テサロニケ 5・(12a) 13b－18）

2009　それらはあなたの手の中で一つとなる（エゼキエル 37・15－28）

2010　あなたがたはこれらのことの証人となる（ルカ 24・48）

2011　使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることにおいて一つ（使徒言行録 20・42 参照）

2012　わたしたちは皆、主イエス・キリストの勝利によって変えられます（一コリント 15・51－58 参照）

2013　神が何をわたしたちに求めておられるか（ミカ 6・6－8 参照）

2014　キリストは幾つにも分けられてしまったのですか（一コリント 1・1－17）

2015　イエスは「水を飲ませてください」と言われた（ヨハネ 4・7）

2016　主の力あるわざを、広く伝えるために招かれて（一ペトロ 2・9 参照）

2017　キリストの愛がわたしたちを駆り立てています（二コリント 5・14－20 参照）

2018　主よ、あなたの右の手は力によって輝く（出エジプト 15・6）

2019　ただ正しいことのみを追求しなさい（申命記 16・20）

2020　人々は大変親切にしてくれた（使徒言行録 28・2 参照）

2021　わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば、あなたがたは豊かに実を結ぶ。（ヨハネ 15・5－9 参照）

2022　わたしたちは東方でそのかたの星を見たので、拝みに来たのです。（マタイ 2・2）

2023　善を行い、正義を追い求めなさい（イザヤ 1・17 参照）

2024　あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい（ルカ 10・27）

◇キリスト教一致祈祷週間に関する歴史上の重要な年◇

1740年頃 スコットランド	スコットランドで起こり、北アメリカ大陸まで及んでいった聖霊による働きに目覚めた人々がいた。それは諸教会を包む信仰覚醒運動の祈りであった。（メソジスト運動）
1820年 ジェームス・H・スチュアート	ジェームス・H・スチュアート神父の著作が出版された。 “Hints for the General Union of Christians for the Out-pouring of the Spirit”
1840年 イグナティウス・スペンサー	ローマ・カトリックへ改宗した、イグナティウス・スペンサー神父は、「一致のための合同の祈り（Union of Prayer for Unity）」を提唱した。
1867年 ランベス会議	聖公会の主教たちによる第1回ランベス会議が行われ、一致祈祷についての転換の前兆となった。（1920年のランベス会議決議では、「教会の再一致の訴え」を協議した。）
1894年 教皇レオ13世	ローマ教皇レオ13世は、聖霊降臨に関連して、一致のために八日間の祈りの実施を奨励した。
1908年 ポール・ワトソン	「教会一致のための八日間の祈り」が、ポール・ワトソン神父によって初めて行われた。
1926年 信仰と職制運動	信仰と職制運動は「キリスト教一致のための八日間の祈りの提案」を広める活動を開始した。
1935年 ポール・クトゥリール	フランスのポール・クトゥリールは「主の意志によってキリスト教が一致しようとする」祈りを基に包括した「普遍的なキリスト教一致祈祷週間」を提唱した。
1958年 “Unité Chrétienne”	“Unité Chrétienne”（フランス、リヨン市）とWCC（世界教会協議会）の信仰職制委員会は、祈祷週間のために資料を協同で準備し始めることとなった。
1964年 エルサレム	教皇パウロ6世と総主教アテナゴラス1世が、共にイエスの祈り「すべての人を一つにしてください」（ヨハネ17章）を唱える。
1964年 第二バチカン公会議	第二バチカン公会議の「エキュメニズム教令」ではエキュメニカルな運動の精神とキリスト教一致祈祷週間の遵守を促進することを強調した。
1966年 信仰職制委員会、一致推進秘書局	WCC（世界教会協議会）の信仰職制委員会とキリスト教一致推進秘書局（現教皇庁キリスト教一致推進省）は、祈祷週間テキストについて公式な協同の準備を開始した。
1968年 第1回教会一致祈祷週間	第1回「キリスト教一致祈祷週間」は、「信仰職制」のテキストに基づいて行われ、それはキリスト教一致推進秘書局と協同で準備された。

1975 年 地方教会による一致祈祷週間冊子	地方教会のエキュメニカル・グループが作成した草案に基づくキリスト教一致祈祷週間の冊子を初めて使用。この年の草案を作成したのはオーストラリアのグループ。
1988 年 マレーシア・キリスト教連盟	マレーシア国内の主要キリスト教教派の連合のマレーシア・キリスト教連盟が大会開会礼拝でキリスト教一致祈祷週間冊子を使用。
1994 年 YMCAとYWCA	YMCA と YWCA が協力して 1996 年キリスト教一致祈祷週間テキストを作成。
2004 年 キリスト教一致祈祷週間冊子	以後、キリスト教一致祈祷週間の冊子を、信仰職制委員会（WCC）と教皇庁キリスト教一致推進評議会（カトリック）が同一の体裁で協同制作・出版することが合意された。
2008 年 100 周年	キリスト教一致祈祷週間開始 100 周年（教会一致のための八日間の祈りが 1908 年に初めて行われた）。
2017 年 宗教改革 500 周年	宗教改革 500 周年にあたり、ドイツの教会が 2017 年キリスト教一致祈祷週間冊子の草案を作成。

＜お願い＞

この種の出版や今後の共働を推進するために、全国のキリスト者の皆様のご理解とご支援を心から期待しております。合同祈祷会の献金の一部、あるいは有志の献金を多少なりともお送りくだされば、事務局の活動の大きな励ましと支えになります。ご協力をお願い申し上げます。

日本キリスト教協議会

169-0051　東京都新宿区西早稲田2-3-18-24

TEL　03-6302-1919　FAX　03-6302-1920

郵便振替　00180-4-75788『日本キリスト教協議会』

カトリック中央協議会

135-8585　東京都江東区潮見2-10-10　日本カトリック会館内

TEL　03-5632-4445　FAX　03-5632-4465

郵便振替　00130-6-36546　『宗教法人カトリック中央協議会一般会計口』

（通信欄に「キリスト教一致祈祷週間」と明記してください）

2023年キリスト教一致祈祷週間 献金リスト（敬称略）

〈カトリック中央協議会扱い〉

（2022年11月1日～2023年8月31日）

青森市キリスト教協議会
アトンメントのフランシスコ会
アトンメントのフランシスコ女子修道会
イエズス会神学院
大阪聖ヨゼフ宣教修道女会
幼き聖マリア修道会　富山修道院
オタワ愛徳修道女会
お告げのフランシスコ姉妹会
鹿児島キリスト教一致祈祷会
カトリック（横浜）金沢教会
カトリック浦和教会
カトリック岡山鳥取地区センター
カトリック北浦和教会
カトリック桜町教会事務局
カトリック三條教会
カトリック玉野教会
カトリック遠野教会
カトリック取手教会有志
カトリック東松山教会
カトリック福山教会
カトリック防府教会
カトリック母間教会
カトリック本所教会
カトリック松が峰教会
カトリック松戸教会
カトリック水戸教会
カトリック門司教会
カトリック茂原教会
カトリック雪の下教会
カトリック横浜司教区
カノッサ修道女会
熊本朝祷会
けがれなき聖母の騎士
　聖フランシスコ修道女会
汚れなきマリア修道会　調布修道院
坂出・丸亀地区キリスト教一致祈祷委員会
札幌朝祷会
サレジアンシスターズ　浜松修道院
サレジアンシスターズ　別府修道院
サレジアンシスターズ聖ヨセフ修道院
サレジアンシスターズ玉造修道院
三条聖母マリア教会
サンスルピス司祭会
師イエズス修道女会
シトー会　那須の聖母修道院
シトー会伊万里の聖母修道院
殉教者ゲオルギオのフランシスコ修道会
純心聖母会　小野田修道院
純心聖母会　原爆ホーム第二修道院
純心聖母会八王子修道院
ショファイユの幼きイエズス修道会
　大阪信愛修道院
ショファイユの幼きイエズス修道会
　本部修道院
聖クララ会修道院
聖ドミニコ宣教修道女会　東京修道院
聖霊奉待布教修道女会
新潟キリスト教連合会
福岡一致祈祷会
藤沢市内キリスト教連絡会
ベタニア修道女会
マリアの宣教者フランシスコ修道会
　札幌修道院
マリアの宣教者フランシスコ修道会
　種子島修道院
マリアの宣教者フランシスコ修道会
　東京第二修道院・第三修道院
マリアの宣教者フランシスコ修道会
　前橋修道院
マリアの宣教者フランシスコ修道会
マリアの宣教者フランシスコ修道会
　神戸修道院
聖心の布教姉妹会本部
黙想と祈りの集い（テゼ）
レデンプトール修道会　長崎修道院
レデンプトール宣教修道女会

近藤裕子
竹内久枝
寺濱康子
中村泰子
三木康子
鈴木崇代
廣　陽二
匿名３件

〈日本キリスト教協議会扱い〉

（2022年10月1日～2023年9月30日）

青森市キリスト教協議会
市川市キリスト教一致祈祷週間合同礼拝
坂出・丸亀地区　キリスト教一致祈祷委員会
日本基督教団　伊豆高原教会
日本基督教団　いずみ教会･カトリック和泉教会
広島市キリスト教連盟
福岡一致祈祷会
松山地区教会一致祈祷会
外山　誠
細井　めぐみ

「2024 年 キリスト教一致祈祷週間」
日本キリスト教協議会・カトリック中央協議会　共同発行